農業女子PJ

〔農業女子プロジェクトレター＃1〕

‘農業女子的軽トラック調査’‘社長との勉強会’‘女子的トイレワークショップ’…
全国で個別プロジェクトが始動しています。

農林水産省

2013年11月6日に、参加企業及び農業女子メンバー、林農林水産大臣ほかの出席のもと「第1回推進会議」が開催され正式スタートとなった【農業女子プロジェクト】。会議で発表された企業と農業女子が推進する【個別プロジェクト】が日本各地でそれぞれの活動を始動させています。

今回は、その中から

・【‘私の’軽トラックプロジェクト】（ダイハツ工業株式会社）
・【農業女子的野菜が喜ぶメニュー開発】（日本サブウェイ株式会社）
・【女子的トイレ開発プロジェクト】（株式会社レンタルのニッケン）
・【農業女子的！おもてなしプロジェクト】（リーガロイヤルホテル）

の取り組みについてご紹介します。

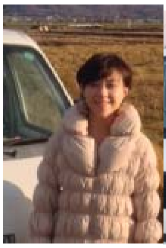
個別プロジェクトへの活動についての取材も対応しております。各企業の担当者もしくは事務局（農林水産省経営局就農・女性課）にお問い合わせください。

【‘私の’軽トラックプロジェクト】　（ダイハツ工業株式会社）

農業女子の視点も取り入れた次世代の軽トラックの企画・開発を目的に推進されている本プロジェクト。全国の農業女子の軽トラック利用の実態、不満点や要望を開発担当者が直接聞きに行く‘農業女子向け軽トラック調査’が、全国各地で展開されています。

農業女子の自宅などに集合したメンバーとダイハツ工業の開発担当者。最初は戸惑いながらも徐々に女子ならではの打ち解けた雰囲気の中で調査は進められています。北海道、姫路、熊本を終え、今後も進んでいきます。

農業女子の大事な仕事道具である軽トラック、「おしゃれさ・個性も表現できたら」「女子ならではの快適・便利機能も欲しい」「仕事をもっと効率的に進めたい」と大いに拡がる農業女子の声、次世代軽トラック誕生に向けて活発な意見が各地で交わされています。



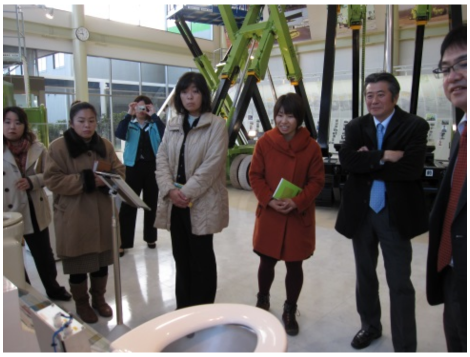
【農業女子的野菜が喜ぶメニュー開発】（日本サブウェイ株式会社）

農業女子と一緒に野菜のおいしさを活かして、野菜を子どもたちにもっと好きになってもらえるようなサイドメニューを企画する本プロジェクト。12月11日に開催されたキックオフミーティングでは、伊藤社長が行った東京農業大学における「日本サブウェイ」のブランドコンセプトの講義を聴講。場所を移し、サブウェイ本社の、店舗そのままのような研修施設で、サンドイッチづくりの体験実習と、マーケティングや商品開発研修を受けました。女子メンバーは、梅、施設キュウリ、原木しいたけ、お茶、レタスなど、それぞれ異なる農産物の生産者。自身の扱う農産物の特徴や、生産時期、地域で行っている活動なども含め、今後の活動やメニュー企画に向けて活発な意見交換が行われました。

【女子的トイレ開発プロジェクト】（株式会社レンタルのニッケン）

「圃場にトイレが無い」「仮設トイレはあまり使いたくない」など、農業女子が日頃大きな課題と考えている圃場でのトイレ。そんな農業女子の意見を取り入れ、女性が進んで使いたくなる仮設トイレを開発するのが本プロジェクト。

1回目の会議は、12月11日にレンタルのニッケンの足利オフィスで開催。トイレを実際に見た後、会議がスタート！　仕様などの議論に終始してしまわないように、参加者全員で農業のイメージや抱える問題点を整理して、本プロジェクトのゴールを考えました。「女子的トイレの製作が本当のゴールではない！」「女性を含め、就農者や農場にやってくる人が増える」「これまでのイメージを払拭することが農業の未来を変える！」など。仕様については、現状の「困った」をベースに、大きさ、デザイン、照明、収納、清掃など様々な意見が出されました。



【農業女子的！おもてなしプロジェクト】（リーガロイヤルホテル東京）

2014年7～8月の「農業女子フェア（仮）」の開催に向けて、農業女子の知恵や生産力を取り入れたサービスを企画するのが本プロジェクト。宿泊プランやレストランメニュー、イベントについて、農業女子メンバーとホテルスタッフが約半年間かけて企画を組み立てていきます。

1回目の会合は、12月10日、リーガロイヤルホテル東京で開催。農業女子メンバーからは、「普段仕事で忙しく、食生活がおろそかになりがちな20～30代の女性を対象に、朝ご飯を充実させてコンディショニングを整えるステイプランを考えてはどうか」「時間にゆとりがある世代を対象に、健康やアンチエイジングに関する講座を行ってはどうか」など、フェアのコンセプトや具体的な内容について活発な意見が出されました。

【問い合わせ先】

農林水産省　経営局　就農・女性課

農業女子プロジェクト事務局

ダイヤルイン：03-3502-6600

E-mail：team-jyosei@nm.maff.go.jp

（担当：勝又、有冨）